

2013年11月27日

2013年度春学期 授業アンケート「教員コメント」の「総括」

(各教員の授業アンケートに対するコメントを読んだうえでのFD委員会の総括)

FD委員会

<演習・実習系科目>

1, アンケート自己分析は全般的に良好であるとの評価が多くありました。少人数教育に特徴的な結果だったといえます。その記述からは教員たちの教え甲斐という意味で、教員満足度も高いように見受けられました。

2, 改善点については、演習毎に具体的な改善案があげられて、各教員が毎年度かかさずに授業改善に取り組んでいる姿が垣間見えました。受講者の出席状況や演習に取り組む姿勢といった、受講者の行動についてまで注意を払った授業改善コメントが数多く見られた点は、演習・実習系ならではの改善コメントだったと思います。

<座学>

1, アンケート自己分析を見ると、いずれの教員も真摯にアンケート結果を受け止め、かつ冷静に分析しています。教員の授業の方針と受講者の受け止め方とのギャップに困惑しつつも、その差異が何であったのかの把握に努めている姿勢が随所に見られました。

2, 改善点についても、アンケート結果を真摯に受け止めて、具体的に改善案を提案している教員ばかりで、授業に取り組む誠実さを感じました。学生の反応をもっとよく観察することや、準備の充実など数多くの改善案が提案されています。とくにアクティブラーニングの視点を語った改善記述が目につきました。またリアクションペーパーの活用もございました。座学でも双方向性の時間を持つように授業を変化させていく様子が見て取れます。

<語学>

1, 自己分析をみると、小テストや宿題に関する記述、授業に導入している語学レベルの高低についての自己分析記述の多い点が、特徴であったと思います。どの教員も誠実に分析している様子が分かります。

2, 改善点については、授業の進行ペースや教材の使い方、予習復習のタイミングといった配慮をして、ついてこられない受講者がいなくなるべく苦慮しておられる様子がうかがえます。授業が進むにつれて習熟度が異なっていくという語学教育の難しさに対して、改善方法を編み出すべく果敢に挑んでいる様子からは、教員の授業改善に取り組む真摯さを感じました。

<総括>

各教員の自己分析はとても冷静で、授業改善について積極的でした。真摯に反省して改善案を提案している教員がほとんどで、授業に取り組む意欲が高いと総括します。

ただし、例年にわたって学生から問題が指摘されているような教員で、かつアンケートコメントを提出しない教員は、授業の改善をするつもりがあるのか疑問を抱かざるを得ません。